

【算数】記述式問題が苦手

手立て

毎時間の授業の「積み重ね」で、児童の書く力を高める

具体例

POINT① **見いだす** 課題を「自分自身のこと」として捉える

○課題を発見し、解決の糸口を考え、解決の見通しをもつ

- ・前時までの学習との違いを捉える。
- ・解決の糸口（もし～だったら、～できるのに）を考える。
- ・既習をどのように工夫したら課題が解決できるか、話し合う。

例えば異分母分数のたし算・ひき算の導入では

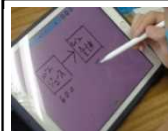
- ①今までと違い、分母が同じではない。
- ②もし、2つの数の分母が同じだったら、計算できる。
- ③分母を同じ数にそろえる方法はないだろうか。
→通分する

教師からの課題の提示や、一部の児童の意見だけでの課題を設定等はしません。「どう思う」「本当にそうかな」と問いかけ、児童に深く考える機会と時間を与えることが大切です。

POINT② **広げ深める** よりよい表現や考えにレベルアップする

○端末を活用し、友達の考えを共有・比較して自分の考えをよりよいものに仕上げる

- ・自分の考えを、学習支援クラウドを活用してまとめる。
- ・児童同士で考えを交流する。
- ・友達の考えを自分の端末に取り入れ、よりよいものにまとめあげる。



自分の考えを端末でまとめる。

友達の考えを端末に送信してもらい、自分の考えと比較しながら、よりよい表現にまとめていく。

もらった考えを端末上で整理し、考えを深めていく。

POINT③ **まとめあげる** 自分の言葉でまとめを書く

○学習活動を通してまとめた考えを、自分の言葉で書く

- ・端末にある自分や友達の考え方をもとに、自分の考えを深め、まとめる。
- ・友達と自分との違い、自分の考えの変容などに着目して書く。

①端末に書かれていることを使って学習事項のまとめを書く。

②端末上の考えを整理したり友達と自分の考えを比較したりすることで、気付いたことや、自分の考えの変容（なぜ、どのように変容したか）などに着目して、「振り返り」を書く。

児童が主体的に学習に取り組むことによって、「まとめ」や「振り返り」を自分の言葉で書けるようになります。話し合い活動を行うときに、まとめや振り返りを意識して活動させましょう。